

細江 正人 NEWS LETTER

県議会活動レポート vol.2 2012.01.08.
発行 細江 正人事務所

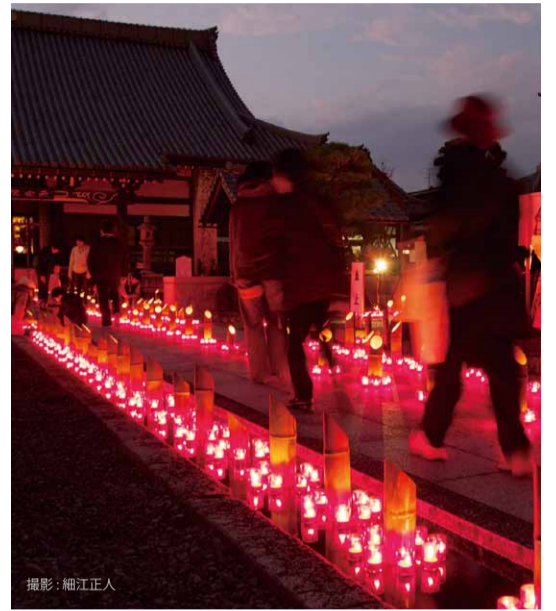
事務所 〒522-0052 滋賀県彦根市長曾根南町437 (株)天農堂内 tel.0749-24-2112・fax.0749-24-2114 / 自由民主党滋賀県議会議員団 〒520-8577 大津市京町4丁目1-1 tel.077-528-4010・fax.077-528-5110

未来へ……

2011年、言葉にできないかけがえのない多くのものを失いました。自然の脅威の前に、無力であることの憤りと悲しみは、全てを失った人たちがもういちど、前を向いて生きていこうと思えるようにと、「絆」というそれこそドラゴンボールの元氣玉みたいな心の温暖化を発見させてくれました。2012年、大きな元氣玉を作って未来へ届けることができるような一年にしたいですね。

昨年の防災対策特別委員会、「滋賀県地域防災計画(原子力災害対策編)」の見なおしがありました。防災計画を行政に任せておくだけでなく積極的に議会が関わることは是非が議論になりました。議決は起立で行われますが、提案が通らないと判っている時には、起立しないのが慣例となつていっています。

「議会の議決事件として定める」ために、時間を費やし研究し問題点を整理してきたので、私は、議員としての判断を確りと示すことが大切だと思ひ、起立しました。独りでした。今年も、滋賀県議会議員として頑張らせていただきます。



撮影：細江正人

思うことなど……

■昨年11月23日、「ひこねキャンドルナイト2011」が、彦根市本町の宗安寺で行われた。低炭素社会実現に向けて「気づき」を促すことを目的にしている。実行委員会は、本年3月11日に、「絆」をテーマにひこねキャンドルナイトを計画しているという。

<http://www.ii-ii.jp/2011/>

また、「東北から離れていても、被災地の今を想っていたい」。そんな思いから「ろうそくの灯る時間、東北を想おう」をテーマにした「ほたてあかり」が、滋賀県立大学の学生有志により企画され、販売も始まっている。「ほたてあかり」の制作は宮城県南三陸町田の浦のお母さんたちの漁業復興までの間の仕事となっている。

<http://hotateakari.blog.fc2.com/>

キャンドルの灯は今、人々を繋ぐ手段になっているようだ。私もできる限りのお手伝いをしたいと思っている。

■2011年11月24日～26日、宮城県三陸地方の視察に同行させていただいた。女川町では、防災・産業・住環境・保険医療福祉・人材育成の5つを復興の柱に、復旧期を2年、基盤整備期3年、本格復興期3年の平成30年度を目標に「女川町復興計画」を策定し町民一丸となって取り組んでおられた。また同時に、「地元の商売を復興をしなければならないが、中小企業の経営者を守る制度はない」と知った。

復興への支援とはいったい何なのか……。義援金や物資を届けるだけではない。被災された方々が「前を向いて生きていこうと思える」ような支援とは何なのか。優先順位は確かにあるが、地元の商工業者を守る制度を、シミュレーションしておきたいと思った。



低炭素社会づくりの推進について

「低炭素社会」とは、「化石燃料に依存しない社会経済構造の確立により、豊かな県民生活および経済の持続的な成長を実現しつつ、温室効果ガスの排出の量ができる限り削減された社会」と定義されています。化石エネルギーに依存した社会から脱却することが、「低炭素社会づくり」を推進することになります。

県には「滋賀県低炭素社会づくり推進条例」があり、9月定例会でも議論されましたが、産業の空洞化に拍車をかけることへの懸念もあります。県民一人ひとりが低炭素社会づくりに取り組むことができるよう、廃食用油の回収やバイオディーゼル燃料(BDF)化事業を中心に、質問させていただきました。私は廃食用油の再生は、低炭素社会づくりのなかで住民にできる眼に見える大きな効果のある行動と考えています。(平成23年11月定例会一般質問)

■細江正人の滋賀県議会質問答弁の詳細は、<http://www.shigaken-gikai.jp/> をご覧ください。

県立高等学校の再編について

議会は、「県立高等学校の再編」について、少なくとも今後1年以上の時間をかけ、慎重な検討とともに生徒や県民への説明、理解を十二分に得よう、強く求める決議を可決しました。「県立高等学校の再編」は、少子化に伴う統廃合だけでなく、多様化する生徒の個性やニーズによる新学科の新設、人口分布、教職員数、財政などの問題が複雑に絡み合い、関係市町から公開質問状や再質問が相次ぐ状況です。このままでは、子どもたちと地域の将来に禍根を残すこととなります。

私は、先送りではなく「県立高等学校の再編」を積極的に、滋賀県の教育レベルの向上と地域の発展の手段として理解していただけるような構想に高めることが必至であり、それまで県立高等学校の再編を可決するべきではないと考えています。(平成23年9月定例会関連質問)

世界遺産

私の住まいするまちは夢京橋キャスルロード西側、彦根城の中堀と元外堀の間にあり、天守閣を仰ぎ見る本町二丁目です。この界限の道幅は藩政時代からそのまま、狭い道沿いは江戸時代を想わせる佇まいを色濃く残しています。

昨年暮れ、地元紙によると彦根城の世界遺産登録推進委員会は登録推進のコアゾーンを城郭内部と大名庭園、墓所等に特化する案を提示し、より実現性の高いものにするとのことでした。

コアゾーンを城郭内部に特化する場合、中堀と元外堀の間の地域は、バッファゾーンになります。バッファゾーンとは緩衝地帯と訳され、世界遺産である建造物等自体の周辺地域をさす言葉です。世界遺産の実務では遺産の周辺地域も原則として保護・規制されていなければならず、その規律は年々厳しくなっています。

本町二丁目、コアであれバッファであれ、世界遺産登録には欠くことのできない重要な地域であることは確かです。しかし、世界遺産登録が成さ

れば、私たちが目指す「住み続けたいまち」が実現するかとさえ思っています。現実、その先に、結果として世界遺産登録があるはずは、

「本町二丁目まちなみ研究会」は、江戸時代の風情が残り生活に良好な形で後世に伝えたいとの思いから、有志が集って町内に呼びかけ、平成22年景観形成市民団体に認定されました。今年はいよいよ市条例に近い「地区計画」の、関係者説明会を始めていく予定です。

「住み続けたいまち」とは、条例や規則だけで実現できるものではありません。温かい暮らしの営みがあるまちを目ざし実現するために、地域の皆さんと共に努力したいと思います。



彦根を
元気に!

www.hosoemasato.jp

[@hosoemasato](https://twitter.com/hosoemasato)

[facebook/hosoemasato](https://facebook.com/hosoemasato)